

リーディング大学院認定式 リーディング院生代表挨拶

東日本大震災から早三年が経ちました。今年は例年よりも暖かく、東北の地においても、徐々に春の温もりを感じられるようになりました。この春、私たちは東北大学のリーディング大学院新入生として、気持ちも新たにこの認定式を迎えています。

学部入学時にはまさか自分がこの場に立っているということは全く想像もしていませんでした。入学してからの二年間は、勉強にあまり身が入らず、アルバイトや趣味を優先する典型的な劣等生であり、学部卒業後には就職しようと思っていました。しかし、東日本大震災発生を機に自分の人生に対する考え方が大きく変わり、今この場を迎えています。この中にも少なからず、東日本大震災が人生の転機になったと感じている人も多いと思います。

東日本大震災は日本の行く末を大きく変えた出来事だったと思います。日本の様々な問題が大きく浮き彫りになりました。発生から三年がたった今、私たちは、起きてしまったことに対する応急処置を引き続き行っていくことも重要ですが、この経験や知見を基に新しい時代を作っていかなければならない立場にいます。

そんな状況において、東北大学の推進する「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」はとても重要な役割を果たすと思います。東北の地は、今時代の最前線にあります。過疎化問題、高齢化問題、大自然との共存等、日本全体で今後起こるであろう難しい問題が他のどの地域よりも早く東北に訪れています。私たちは、このプログラムを通して、ここ東北でたくさんの学びを得るチャンスをいただきました。

その際に、一人一人がリーダーになるための自覚を持ち、どこよりも率先して困難な道を歩み、他の誰よりも貪欲に物事を吸収し、自ら考え・行動し、あらゆるリスクに対応する力を持った、「安全・安心」を牽引していく人間になる努力をしなければなりません。この東北の地から新たな時代の第一歩を踏み出すことこそが、日本の未来を支え、真の「安全・安心」を構築することになると私は考えています。

最後になりましたが、このプログラムを運営していただいている、先生方をはじめとするすべての方々のご尽力に深く感謝いたします。

平成 26 年 4 月 1 日

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

新入生代表 中 安 祐 太